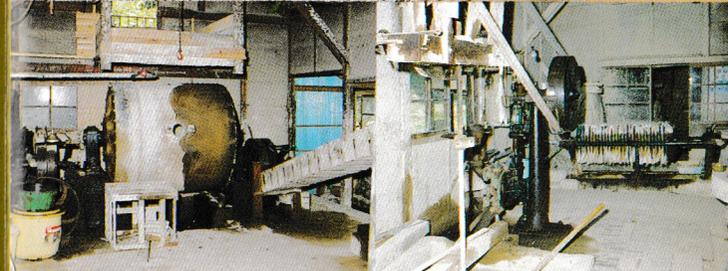
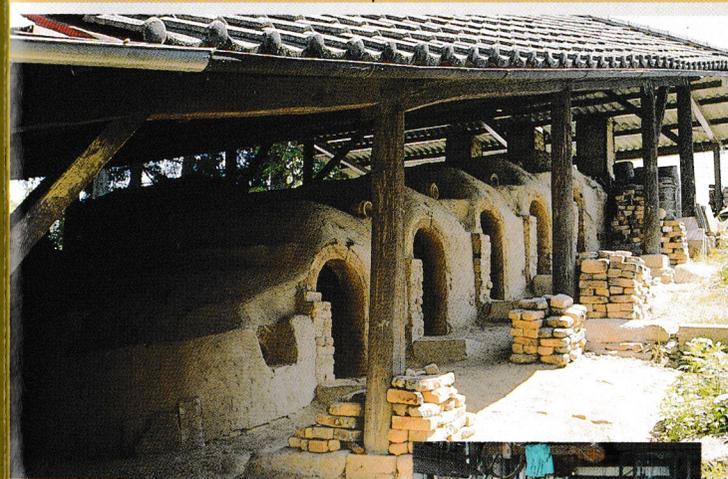




陶土採掘場

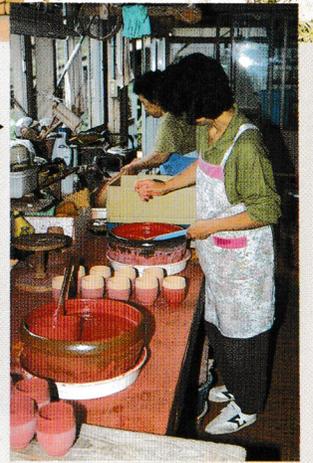


陶土攪拌 (陶土をどろどろの液体にする) 液体のしぼり (水分を取り粘土とする)



▲登窯 (赤松を使用して焼成1,280℃ - 1,300℃)

▼成形 (素焼をしたものにくすりをかける)



土の香り、手のぬくもりが伝わる。



小砂で焼物が製造された歴史は古く、平安時代の須恵器を焼成した窯跡が発見されています。
 小砂焼は1830年(天保元)水戸第9代藩主徳川齊昭(烈公)が小砂に陶土を発見し、水戸藩営製陶所の原料陶土として使われたのが興りです。
 現在では、金結晶という金色の上葉が特徴で、小砂焼は金結晶の名で広く知られるようになりました。



店内

花瓶、茶器、酒器、皿、小物類、その他御注文に応じ手仕事により製作いたします。
 鉄・コバルトでの絵付・手びねりコーナーも御利用下さい。
 宅急便による発送も承ります。

1998	1909	1907	1901	1898	1896	1890	1889	1873	1871	1870	1856	1854	1851	1840	1834	1830	西暦
平成10	明治42	明治40	明治34	明治31	明治29	明治23	明治22	明治6	明治4	明治3	安政3	安政元	嘉永4	天保11	天保5	天保元	和暦
現在に至る	田陶器学校を新設開校	工業補習学校を廃し、村立大山下野陶器株式会社創立	村立小砂焼陶磁器業伝習所開設	藤田半平歿	陶磁器研究所開所 窯元三。	村立大山田工業補習学校開校。	第三回内国勸業博覧会にて藤田半平褒状を受く。	窯元七軒となる。小砂村と大山田村。	小砂村はさらに栃木県に属す。	小砂村は水戸県に属し、後十一月宇都宮県に属した。	水戸昭武公小砂村を巡覧	齊藤栄三郎の築窯は完成直前にて台風に遭い大破す。 栄三郎は辛苦の末窯を補修し初窯に成功す。	藤田半三郎は齊藤栄三郎と父子契約を結び、栄三郎は藤田半平と改名。	那珂湊に反射炉起工 毀鐘鑄砲の太政官符下る 藤田重衛門、半三郎父子は、齊藤栄三郎を呼び、築窯の相談を始める。	大金彦三郎御用瀬戸の焼立を實施	唐津の陶工伝五郎を水戸へまねく へ運搬	水戸第九代藩主徳川齊昭(烈公)小砂に陶土発見

「小砂焼」陶業年表